



YMCA 大阪青年

6

2019年6月1日発行
1916年5月1日創刊
発行 / 小川 健一郎
編集 / 大阪 YMCA 広報室
〒550-0001
大阪市西区土佐堀 1-5-6
Tel 06-6441-0894
Fax 06-6445-0297
URL: <http://www.osakaymca.or.jp>

いのち 水難事故から尊い生命を守る



慶應義塾大学
体育研究所
専任講師
とりうみ たかし
鳥海 崇

毎年夏になると、テレビや新聞などで連日水難事故のニュースが話題になります。この水難事故は、日本のみならず世界中で発生しており、先進国の場合は釣りや遊泳中などのレジャー時での発生が多く、発展途上国では、生活の糧を確保する漁、船などを利用した移動中に発生することが多いのが特徴です。

我が国の場合、特に夏の間は海や川などでの遊泳中に発生することが多く、年齢別にみると小学生から高校生までの子どもに多く発生しています。水難事故を防止するためには周囲の安全をよく確認することが大切になります。周囲の安全は、誰にとっても共通のものではなく、身長やどの程度泳げるかなど、個人個人で変わってくるものです。

例えば、海と同じ場所で泳ぐ場合でも、身長が高くよく泳げる人に比べ、身長が低くあまり泳げない人は水難事故に遭う危険性が増します。近年では、水難事故を防止するためには、このように自分の水泳能力と周囲の環境

とを比べて、どの程度安全かを正確に把握する能力が必要だと考えられています。これをWater Competencyと呼び、この能力については、日本と同じ海に囲まれ水文化が多様なニュージーランドの研究者を中心に現在盛んに調べられています。例えば、年代別で見ると16歳から22歳の若者が、そして性別で見ると女性よりも男性の方が自分の水泳能力を過信し、周囲の環境の危険性を過小評価する傾向が強いと言われています。さらに、国や世代、性別を超えて最も危険なのは飲酒をして遊泳することです。

これらのことから、YMCAで実施されている水難事故に遭遇した場合の対処の仕方、例えば着衣泳や身の回りの道具を使って浮きにする方法などを学ぶと共に、YMCAが作成しているウォーターセーフティーハンドブックなどで、必ず自分の水泳能力と周囲の環境の危険性を確認(Water Competency)していただきたいということです。もちろん中学生以下の子

もの場合は、まだ周囲の環境の危険性について正確に把握することはできないので、保護者が十分に把握する必要があります。しかし、その保護者も初めてのロケーションであれば危険性の予知は十分ではないので、地元の情報を参考にすることが必要となります。

海や川といった自然環境は時々刻々と変化します。また子どもの体力も十分でないことが多いです。そのため、泳いでいい場所、そして泳いでいい時間、これらを具体的に伝えることで水難事故を未然に防ぐことができると考えます。

日本には豊かな水文化があり、これを後世へ伝えていくことはとても大切なことです。YMCAでは等しく一人ひとりの生命が大切にされ、尊重されています。今夏も、恵みの水とうまく関り、自然と親しむためにも日ごろの水泳教室や水上安全教室を通して、仲間と生命の大切さを語り、ご家庭でも安全対策を講じられ、楽しい夏を過ごされることを願います。

■大阪YMCAの使命

大阪YMCAは、聖書に示されたイエス・キリストの愛と奉仕の生き方に学び、YMCAの世界的な運動に連なり、希望を持って、共に生きる社会の実現をめざします。

- ボランティア精神をはぐくみ、互いに協力し、明るくあたたかい地域社会の形成に努めます。
- すべての世代の人びとが、出会いと生きがいを見いだすための、生涯にわたる気づきと学びの活動を展開します。

- 未来を築く力強い子どもたちを、家庭・地域社会と共に育てます。
- 生命を尊重する心を養い、自然と人間が調和する働きをすすめます。
- 世界の人のびとと力を合わせ、環境・人権・貧困の課題に取り組み平和で公正な世界をめざします。

SDGsの取り組み ~アジアの水難事故を0に~



ウェルネス事業部 YAPUNアクアティック水上安全タスク **山口 ひかる**

大阪YMCAは、アジア太平洋YMCAアーバンネットワーク(YAPUN)でオーストラリアのYMCAビクトリア、ソウルYMCA、台北YMCAと共にアクアティックスタッフのタスクチームをつくり、カンボジアの子どもたちに水泳を通して「生命を守る技術」を伝えています。

世界では年間37万人、カンボジアでは1日に6人もの生命が水に溺れる事故で失われています。

カンボジアでの溺死の最大の原因は、子どもも大人も泳ぐことができない人が多いことにあるといわれています。プールの利用料が高



かったり、子どもも働かないといけない環境であったりと、日本のように大人も子どもも水泳を習う、楽しむという生活環境がありません。子どもだけで食べるための魚を捕りに行く時に、池や川に溺れてしまうこともあるそうです。たった3m泳ぐことができれば、また救助が来るまで浮いて待つことができれば助かる生命が多くあります。

SDGs(持続可能な開発目標)のコンセプト「誰ひとり取り残さない」にあるように、「私は泳げるから大丈夫」ではなく、同じ地球に住む人たちの課題は、自分たちの課題、自分ごととして、アジアの水難事故を減らすよう取り組んでいきます。

YMCAは「水泳が上手になること=生命を守ること」として水泳プログラムを実施しています。水泳を通じて、生命を守ること、生命の大切さを知ること、そして自分ごととして考え、行動できる力を育てていきます。



後列右から2番目が筆者

YMCAと私

ユーススポーツ事業 スタッフ **浜 龍馬**

には、より専門的にサッカーに取り組める環境を提供しています。YMCAサッカーを通して、皆さんと「よくなっていく」ことができるように力を注いでまいります。こちら「リノアス八尾クラス」では成人を対象としたクラスもありますので、少し身体を動かしたいなと思った方は、是非リノアス屋上へお越しください。

(お問い合わせ: Tel 06-6842-3360)



2019年度が始まり、私のYMCAスタッフとしての活動も2年目がスタートしました。今年度もたくさんの子どもの笑顔とともに活動できることに感謝いたします。5月の連休には、「GWスポーツコミュニケーションキャンプ」を企画、実施しました。このキャンプは事業部を超えて、国際専門学校高等課程表現・コミュニケーション学科の協力も得ています。YMCA内部で、ウェルネスに限らず自分の専門分野以外からも力を借りることができるのは、YMCAならではの思いです。キャンプ終了後に、参加者の保護者から感謝のメールが届き、私も嬉しい気持ちになりました。

また、今年度より「リノアス八尾クラス」という新たなサッカークラスを開設しました。YMCAは初心者もサッカーを思いきり楽しみ、熟練者



大阪老人施設研究大会 優秀賞受賞



YMCAサンホーム 施設長 **宮原 学**

ことができるYMCAでありたいと願っています。



3月7日(木)にハービスOSAKAで約50の団体が、それぞれの研究テーマを発表する大阪老人施設研究大会(大阪府社会福祉協議会主催)が開催されました。YMCAサンホームからは、「高齢者にやさしいカフェ...食をとおして人をつなげる取り組み」と「地域に開かれた施設を目指して」と題して発表を行いました。「高齢者にやさしいカフェ...食をとおして人をつなげる取り組み」は優秀賞を受賞し、さらに7月に滋賀県で開催される近畿老人福祉施設研究協議会に推薦されました。

人は誰しも、歳を重ね、身体の衰えや様々な環境の変化によって、気持ちが弱くなることがあります。人とのつながりの中で気持ちが潤い、一つでも多くの楽しみを持つことができるように、地域の多くの方々に開かれたYMCAとして、また、食をとおしてみんなが笑顔になる

発達障がい基礎理解講座 開催

発達支援事業 スタッフ **太田 未架**

4月13日(土)、大阪教育大学名誉教授で大阪YMCAサポートクラスのスーパーバイザーでもある竹田契一先生をお招きし、「発達障がい基礎理解講座」を開催しました。学校事業部を中心とする大阪YMCA



職員やボランティアとして活動を支えてくださっている方など、多くの方が参加しました。

竹田先生のお話で、一人ひとりの子どもが、①どこでつまづき、②なぜできないのか、発達障がいの特性を十分に理解した上で支援・指導することの大切さを学びました。考え方や行動面だけでなく、視知覚や音韻、眼球運動など、「読み」の困難をその特性ごとに体験するプログラムでは、参加者の反響が大きく、「読む」という何気ない行為にかかる負担や、特性による困難さの違いを実感しました。そして、声のかけ方や時間に余裕を持ち、課題の量の調整などをどのように工夫することで指導や支援の質的な公平性が保てるのかを考える時間となりました。

また、竹田先生からこれまで関わられた発達障がいの方のエピソードを聞く中で、障がいそのものではなく、一人ひとりの“ひと”に寄り添う姿勢の大切さも改めて感じました。

今回の学びを、それぞれの活動の場で子どもたちの成長を願いながら活かしていただけるよう願っています。

2019ウェルネスDAY

ウェルネス事業本部 スタッフ **雨堤 崇志**

がりを持ち、私たちの活動を社会へ広げていきたいと考えています。ご参加・ご協力いただいた皆様に、心よりお礼申し上げます。



4月29日(月・祝)、南YMCAにて健康啓発イベント「ウェルネスDAY」を開催しました。今年度は「SDGsでココロとカラダにいいことDAY!」をテーマに、水泳やバスケットボールなどのスポーツや丸太切りやポイントラリーなどのイベントを通してSDGs(持続可能な開発目標)に触れ、参加者とともにココロとカラダを動かしました。

YMCAのプログラムに通う子どもたちやその家族、友だちなど多くの方が訪れました。子どもたちは汗を流すほど身体を動かして遊んだり、親子で活動したりと、たくさんの笑顔を見ることができ、SDGsの目標のひとつである「すべての人に健康と福祉を」に楽しみながら取り組みました。

また、今回から新たに地域の方や企業にも出店いただきました。これからもYMCAのみならず、地域や企業と協働することで新たなつな

「憲法記念日知事表彰」受賞

大阪YMCA Yボランティア(会員)の植下五郎さん^{うえした ごろう}が、大阪府知事から青少年活動の普及向上に貢献した功労者の一人として表彰を受けられました。植下さんは、40年以上の長きにわたりボランティアとしてご奉仕され、特に堺地域において様々な委員を歴任し、青少年の育成、地域支援者の獲得にも活躍されました。また、表現・コミュニケーション学科ボランティアも生徒への安心できる環境づくりや、丁寧な寄り添いといった献身的な活動が認められ、功労団体として表彰を受けました。

5月7日(火)に大阪国際会議場ホールで行われた表彰式に、植下さんと、表現・コミュニケーション学科ボランティアを代表して梶川英彦さん^{かしかわひでこ}と岸田香織さん^{きしだ かおり}が共に参加し、吉村洋文大阪府知事から表彰状を授与されました。この度の授賞、心よりお喜び申し上げます。



食育コラム vol.60

高齢者にやさしい喫茶 ～コーヒーの効果～

YMCAサンホーム 食生活創造室 主任スタッフ ^{どうもと たかこ} 堂本 隆子

YMCAサンホームの1階には入居者や地域の方が気軽に利用できる喫茶コーナーがあり、毎朝、ボランティアの方が淹れるコーヒーの良い香りが漂っています。

熱さが苦手な方には粗熱をとり、身体の不自由な方には状態にあった形状のカップを選び、飲み込む力が低下した方には少しロミをつけるなど、高齢者でも淹れたてのコーヒーを楽しめるように、やさしい配慮がされています。1杯のコーヒーから笑顔や会話が生まれ、YMCAサンホームと地域をつなげる役割も担っています。

今や私たちの日常に欠かせない存在となったコーヒーは、健康を維持するための食品としても注目されています。1日3杯程度コーヒーを飲む習慣のある人には、肝臓がんが少ないこと、心疾患、神経疾患、脳卒中による死亡率が低いこと、2型糖尿病のリスクを軽減することなどが報告されています。コーヒーの香りは集中力を高め、脳へのリラックス効果もあります。ゆったりとした気分でコーヒーを楽しみたいですね。



大阪YMCA早天祈祷会

YMCAを愛する人びとによって共に祈る時(毎月第3金曜日予定)が持たれています。YMCAのさまざまな場で活動されている方々にお話をいただき、人生の歩みを分かちあう恵みの時としています。

■第314回 日 時... 2019年6月21日(金) 7:30~8:30

証 し... ^{かきしま ゆたか} 柿島 裕さん
(大阪西ワイズメンズクラブ会長)

場 所... 大阪YMCA会館 10階 チャペル

問合せ... 大阪YMCA 統括本部 総務
TEL:06-6441-0894
E-mail:info@osakaymca.org

会員・賛助会員としてのご協力に感謝申し上げます。

2019年4月度報告・敬称略

【新規会員】
相田 杏香
瀬島 恵子
松谷 茂樹
宮城 茉南

【継続会員】
飯沼 眞
岩田 晋
大村 肇
櫻本 高廣
神谷 尚孝
川岸 清
北村 知三
北山 弘信
木村 容子
河戸 宏往
小西 和子
島田 榮一
谷川 俊一
田原 久美子
丹吾 礼
寺岡 博也
中村 茂高

中村 勝吾
西井 正道
錦織 一郎
西野 陽一
西村 博子
浜野 慎也
福永 嘉彦
藤田 貴大
古田 敏洋
前田 貴史
松岡 虔一
松野 時彦
松本 武彦
松本 三枝子
村上 徳光
吉田 誠二
和田 早苗

【継続賛助会員】
株式会社
朝日新聞社 大阪本社
京王観光株式会社
株式会社シェル石油大阪発売所
株式会社
ジャパンビレッジウエスト
双葉電気通信株式会社

大阪YMCAのホームページで
その他の情報をご覧いただけます。

